

静岡県内のアーティスト等の活動環境およびコミュニティに関するアンケート 調査報告書（概要版）

アーツカウンシルしずおか

1. 調査目的

本調査は静岡県内に拠点をおくアーティスト等が、表現活動を続けていくために求めていること、文化芸術以外の分野との連携に関する関心や意見を集め、アーツカウンシルしずおかの事業への反映や、関係各所への提案や提言に活かすために行ったアンケートである。

2. 調査概要

調査対象	静岡県内に拠点をおくアーティスト等
調査方法	インターネット調査
調査期間	2025 年 2 月 21 日(金)～3 月 24 日(月)
調査内容	ア 文化芸術活動を継続するための環境について イ 文化芸術以外の他分野との連携について
有効回答数	484 件

3. 回答者について

アーツカウンシルしずおかが主体的にウェブサイトやソーシャルメディアを使用して周知すると同時に、県内各地でアーティストと協働する活動を行う団体の協力によりアーティストへ直接的な周知も行った。

協力団体の所在地から、浜松市や静岡市といった都市部からの回答が多く、伊豆地域からの回答は少数にとどまった。居住地および制作拠点は共に静岡県内に有する回答者がほとんどだったが、作品発表や公演等を行っている主な地域として「静岡県外の国内」を選択した回答者が 34.9%にのぼった。

回答者の男女比は、女性の割合が男性の割合を上回ったものの、ほぼ同等であり、年代についても 10 代から 70 代以上まで万遍なく回答があった。

専門とする文化芸術の活動分野については、「音楽」（32.2%）と「美術」（27.7%）が多く、次いで「演劇」（6.8%）、「アートマネジメント」（4.8%）、「デザイン」（4.5%）が続いた。

4. 調査結果の概要

(1) 文化芸術活動継続における課題

現在の環境下で文化芸術活動を続けていく際に感じている課題としては、「活動のための資金の確保が難しい」(57.0%)が最も多く、半数以上の人が資金面での課題を感じていることがわかった。続いて「仕事の依頼や販路がない」(42.6%)、「発表・公演場所の確保が難しい」(40.3%)といった仕事の機会や発表場所の確保についての課題が挙げられた。

また、4人に1人の割合で、「文化芸術活動に対する評価を行う専門家がない、またはそのような組織やシステムがない」(25.6%)を課題と感じており、「文化芸術のための事務(企画書作成や経理処理等)ができない、またはそのための人材の確保が難しい」(23.8%)と合わせて、文化芸術分野に関する評価システムや事務的な面でのサポートに対するニーズが高いことがうかがえた。

(2) 静岡県内での活動メリット／静岡県外での活動メリット

県内での活動メリットとして「拠点場所を確保しやすい」(33.3%)が支持された一方で、県外の活動メリットは「観客・鑑賞者が多い」(52.7%)が群を抜いて多く、県内における観客・鑑賞者の掘り起こしについて必要性を感じている人が多いと考えられる。

他方で、「文化芸術活動に活かせるネットワークがある」という点については、県内・県外の回答数に差はほぼ見られなかった。

(3) 静岡県内で活動を継続するために必要なサポート

「助成金等の支援」(65.5%)が最も高い結果となった。他には「宣伝・プロモーション支援」(55.8%)も半数以上の人が選択しており、広報協力に対するニーズも高い。

場所(物件)の紹介に関する支援については、「作品発表や公演ができる場所の紹介」が46.9%にのぼったが、「作品制作できる場所の紹介」は24.8%にとどまっており、現に活動場所がある県内のアーティスト等にとっては新しい制作拠点よりも、一時的かつ外部のアクセスを前提とした発表や公演ができる場所の紹介に対するニーズが高いことが推察される。

また、「社会の他分野との連携・仲介」(43.4%)や、「地域コミュニティとの連携・仲介」(41.9%)、「県内の文化芸術活動者同士のネットワーク」(37.6%)が示すとおり、ネットワーク支援に対する要望も高い。

(4) 拠点の選定基準

物件選びで重視されるのは「家から近い」「家賃の安さ」「自由に使えること」であり、「近くに親戚や友人がいること」や「(リノベーション等により)設備が整っていること」は優先度が低い傾向にあることがわかった。

加えて、地域選びで重視されるのは「家から近い」「地域の理解」「交通の便」であり、ここでも「近くに親戚や友人がいること」は優先度が低い傾向にあるほか、「ソーシャルビジネスのコミュニティがあること」については、その後の連携のイメージが湧かないのか支持が低い結果となった。

そして、制作場所や活動拠点を選ぶ際に、「物件」よりも「地域」を重視する人が多く、全体の 53.9%を占めている。アーティストを県内に惹きつけ続けるためには、立地条件に左右されない地域環境として、「地域の理解」を深める取り組みが重要になるだろう。

(5) 他分野との連携状況

他分野との連携状況については、「経験あり」が 67.6%、「経験なし」が 32.4%となり、回答者の 7 割近くが他分野と連携した経験を持っている。経験者の主な連携先としては「教育」(37.8%)と「まちづくり」(36.2%)が多かった。

他分野との連携に対し、その必要性を感じる人は 73.6%にのぼり、意欲の高さがうかがえる。理由をたずねた自由記述欄では、文化芸術と他分野の双方にとって、連携することによる相互作用を感じる声が多かった。一方で、文化芸術の有用性を強調する風潮に対する危機感や、連携が効果的な分野は限られるといった意見、他分野と文化芸術のパワーバランスを保つためのコーディネーターの存在を重視する声も目立った。

他分野との連携において感じる課題を具体的に訊ねたところ、「コーディネーター不在」(51.2%)、「資金不足」(37.6%)、「可能性は感じるが行動の仕方が分からない」(37.2%)の回答数が多い。連携に対する意欲が認められる一方で、複数の課題が確認できることから、これらへの対応が求められる。

なお、今後連携を希望する分野としては、「まちづくり」(55.0%)「教育」(53.1%)のほか、「国際交流」(40.7%)、「観光」(39.0%)、「子育て」(31.8%)、「自然環境」(31.0%)がそれぞれ 3 割以上の回答数を得ており、アーティスト等にとって連携のイメージが湧きやすい分野であると示唆される。

(6) 部活動の地域移行に対する印象

現在、国が中心となって進めている公立中学校・高校の部活動の地域移行に関しては11.2%が「すでに関わっている」としており、その可能性や課題について事例や経験談とともに「教育的責任」「専門家不足」「制度の整備」等の意見が寄せられた。

また、「積極的に関わりたい」(11.6%)、「条件や内容によっては関わりたい」(38.6%)という回答から、約半数の回答者が地域部活動への参加に前向きであると考えられる。だからこそ、公平な条件を備えたプログラムの設計や、その周知に向けた施策の検討が望まれる。

(7) アーツカウンシルしずおかの認知と要望

最後に本アンケートの実施主体であるアーツカウンシルしずおかについて認知状況をたずねたところ、「今回初めて知った」が37.2%にのぼったが、約6割は何らかの機会によって存在の認知は成されていることが把握できた。

続いてアーツカウンシルしずおかに期待することについて、自由記述で回答を求めたところ、助成制度の拡充、地域との橋渡し、活動の継続支援とネットワーク構築、地域格差の解消、文化芸術の普及などが挙げられた。これらについては今後さらに分析し、アーツカウンシルしずおかの事業に活かしていきたい。

5. 謝辞

この度のアンケート調査の実施にあたり、多くのみなさまにご協力いただきました。この場を借りて深く御礼を申し上げます。

中でも県内各地でアーティストの活動支援等に携わる7つの地域団体、浜松アーツ&クリエイション、浜松市鴨江アートセンター、若いアーティストを育てる演奏会実行委員会、Arts 実行委員会、シズオカオーケストラ、アルテ・ブラーサ、n8wm (Maya Katsumata)のみなさまには、一人でも多くのアーティスト等に情報を届けるためのお声がけにご尽力をいただきました。誠にありがとうございました。

そして、アンケートへの回答をとおして、貴重なご意見をお寄せいただいたのみなさまには感謝の念に堪えません。今回いただいたご意見を基に、今後さらに充実した事業展開を目指してまいりますので、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。